

有限会社 鶴田有機農園

<基本情報>

所在地：熊本県葦北郡芦北町田浦

<農場概要>

- 柑橘類 15ha（レモン、はるか、せとか、不知火、甘夏、津之輝（つのかがやき）等）
- 甘夏 50a で有機 J A S 認証取得

鶴田ご夫妻は農林水産省広報誌「aff」にも紹介されました。（2019年4月号より）⇒



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 明治33年（1900年）にレモンやネーブル、グレープフルーツなどの苗木を導入（当時では先進的農家）。
- 昭和50年（1975年）頃の甘夏の黄金期に、先代と現会長が、甘夏の食味が落ちたと感じたことをきっかけに、その原因を研究し、果樹栽培には微生物を意識した土づくりが重要と認識。減農薬・無化学肥料による果樹の持続可能な栽培方法に取り組み、平成6年（1994年）に会社設立。
- **平成15年（2003年）に「甘夏」で有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 有機 J A S 認証の甘夏（以下「有機甘夏」）の8割は（株）マルタ（全国展開の関連卸売流通会社）を通じWEB等で消費者へ、残り2割は消費者へ直接販売。販売価格は、認証品でない通常の甘夏の1～2割高くらい。
- 有機甘夏の味は各方面から好評で、**収量も認証品でないものと遜色ない。**
- 有機甘夏以外にも特別栽培農法で生産し、（株）マルタを通じ、消費者や大手スーパー、生協、学校給食向けに販売。



* 2019年6月のG20新潟農業大臣会合の場にも出展（紹介チラシ）⇒⇒⇒



【お問合せ先】TEL.0966-87-0061

会社ホームページ <http://tsurudayuukinouen.web.fc2.com/>

<鶴田有機農園の有機栽培>

- 有機栽培のポイント
有機栽培のポイントは“適期に作業を行なう”こと。常に天候など念頭において、樹にとっての最適な時期を見極め、雑草管理、施肥、剪定、摘果等の作業を行なうことが大切。
- 土づくり
微生物のバランスを整えることが重要。土の表面から20cmくらいまでを良い微生物に支配させると、作物全体のバランスを整えることができる。
魚カスや菜種カス等15種類以上の有機原料を発酵させた堆肥（（株）マルタ・グループが製造）を園地全体に散布している。
- 病害虫・雑草対策
圃場周辺に草花を生やしておくなど、病害虫の天敵が住みよい環境を確保することが重要。
雑草対策は、園地全体を見ながら適期の除草が必要。土が安定してくると樹に絡みつような雑草がなくなる。

<現場の課題>

- 日本の有機栽培農家は、栽培技術的には十分にやっていけるが、販売価格への転嫁ができず行き詰まっている。



<人材育成>

- 次世代を担う人材育成を目的に、平成9年（1997年）頃から研修生の受入れを開始。独立した修了生の中には、熊本県外から就農し甘夏栽培（有機 J A S 認証取得）を始めた農業者もある。

<今後の対応など>

- 今後は、レモン、はるか（柑橘）の有機 J A S 認証取得を計画。